

I なごみの里プロジェクト（熊本県和水町）

1. 活動の目的・背景

和水町では、かつて畑や棚田であった里山を再生するため、当該地（約 20ha）を町有地化したが、維持管理体制を整えることができず荒廃が進行。

その後、隣町に進出してきた企業が社会貢献活動の場を求めていたことを契機として、大学との連携や住民組織の設立など当該地において里山再生や地域活性化を図る体制が整い、「なごみの里プロジェクト」がスタート。

2. 活動の主体と各主体の関わり

○和水町（総務課企画室まちづくり推進係）

- …各種調整、施設（土留工等）の整備

○なごみの里（住民組織）

- …保全活動（棚田の維持管理、竹の伐採等）の実施

○熊本県立大学

- …協定の締結、活動への参加（学生等）
→研究や環境学習の場としての活用

○富士電機システムズ（株）

- …活動への参加（社員）、財政支援、環境学校の開催
→社会貢献活動の一貫

3. 活動の特徴

○企業との連携による効果

- …企業の参画は、保全活動の継続や発展に大きく寄与（活動への人的・財政支援、著名人を講師に招いた環境学校の開催（毎年 1 回）等）。

○大学との制度を活用した産官学の連携

- …大学の協定制度を活用することによって、産官学の連携が実現。

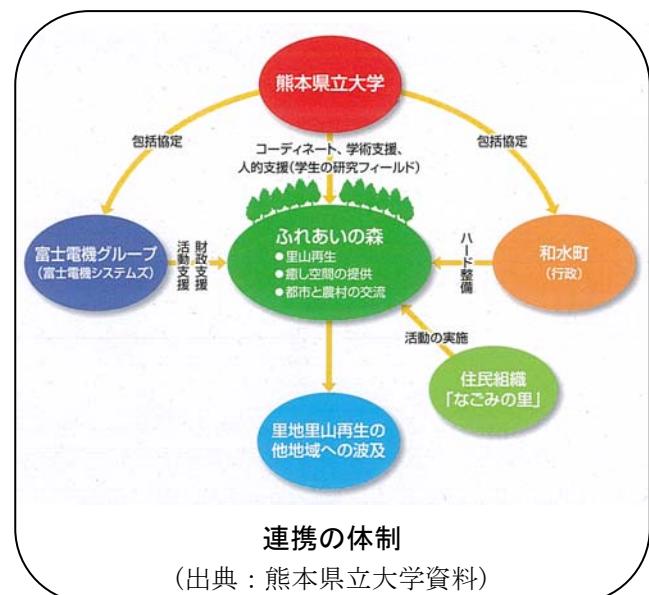
活動への参加が単位取得の対象となる等の工夫。今後、研究の場としての活用も検討。

○地域づくりの観点からのアプローチ

- …和水町・なごみの里は、同プロジェクトを、地域づくり（和水町の PR、住民の交流の場等）や文化の伝承（棚田の稲作、炭焼き等）として位置付け。

○持続的な活動のための仕組みづくり

- …除草目的での赤牛の導入、田んぼで収穫した米の販売（企業の社員、大学の食堂）



(出典：熊本県立大学資料)

【和水町の位置】



学生や企業の従業員が参加しての田植え
(出典：熊本県立大 HP)



除草目的で飼育している赤牛

II 蕪栗沼・周辺水田ふゆみずたんぼ（宮城県大崎市等）

1. 活動の目的・背景

大崎市では、蕪栗沼・周辺水田と化女沼の2箇所のラムサール条約湿地があり、冬には渡り鳥のマガソやヒシクイの重要な越冬地となっていることから、行政や農家等が連携し、鳥と人の共生を目指す「ふゆみずたんぼ」等の取組みを開始した。

2. 活動の主体と各主体の関わり

○大崎市（産業政策課自然共生推進係）

- …条例や総合計画等の整備・推進、鳥類による農作物被害に対する補償

○農家・地域住民

- …野生動植物に配慮した農法（ふゆみずたんぼ等）による米づくり、田んぼの生きもの調査

○NPO法人蕪栗ぬまっこクラブ

- …蕪栗沼に関する調査研究（渡り鳥の数や植生分布等）、ヨシ刈り・野焼き、ゼニタナゴの保護増殖、普及啓発等

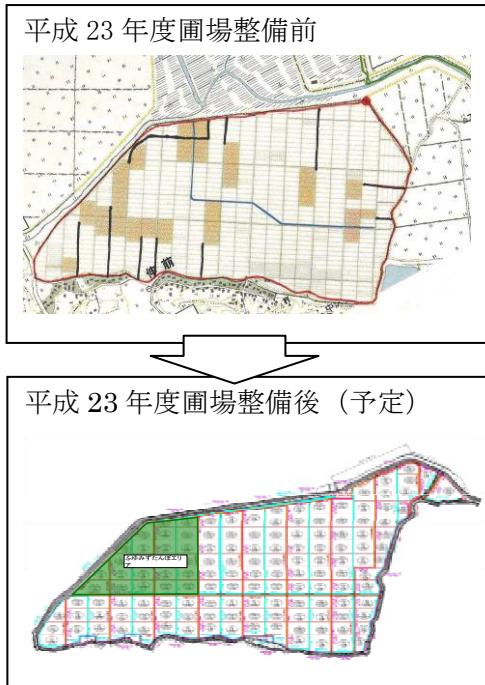
3. 活動の特徴

○経済的価値の付加・地域資源を活用した地域づくり

- …ふゆみずたんぼ・無農薬等により生産された米を「ふゆみずたんぼ米」としてブランド化し、通常の倍近い価格で販売。このほか、地元の酒造会社による「ふゆみずたんぼ米」を使った酒の販売、刈り取ったヨシのペレット化、エコツアーア（蕪栗沼のマガソの観察会）の実施など地域資源を活用した地域づくり。

○農家の理解・協力

- …生物に配慮した農法を行うことのメリット（付加価値の高い米の生産）を示すことで、農家の理解・協力が得られ、連携の体制が確立。結果として、地域の生物多様性の保全が図られている。



圃場整備実施による「ふゆみずたんぼ」
実施農地の変化図（出典：大崎市資料）

【大崎市の位置】



田んぼの生き物調査（周辺水田）
(出典：大崎市資料)



越冬するハクチョウとふゆみずたんぼ
(出典：大崎市ホームページ)

III 名古屋ため池生きもの生き生き計画事業（愛知県名古屋市）

1. 活動の背景

名古屋市内にかつて 360 あったため池は、宅地開発によりその数が減少したが、現在でも 111 が残り、都市における動植物の貴重な生息・生育の場となっている。

しかし、農業の衰退等による人とのため池の関係の希薄化、外来種の侵入による在来種の駆逐といった問題が生じてきたことから、市が中心となり、池干しによる外来種の駆除など人とため池の関係を再構築する取組がスタート。

2. 連携の体制

名古屋市・市民団体・地域住民・研究者等が連携して「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立

○名古屋市（生物多様性企画室等）

…総合計画等の整備・推進、各種調整

○市民団体・地域住民

…池干しの調整、生物調査（指導含む）、外来種の駆除、自然観察会

○研究者

…保全計画の立案や調査、標本作成に関する指導・助言、池干しの際の種の同定

3. 活動の特徴

○都市における生物多様性の保全

…現在は農業利用されていない「ため池」を、都

市における生物多様性の保全上重要なものとして位置付け、市民団体や周辺住民等の協力を得ながら保全活動を推進。

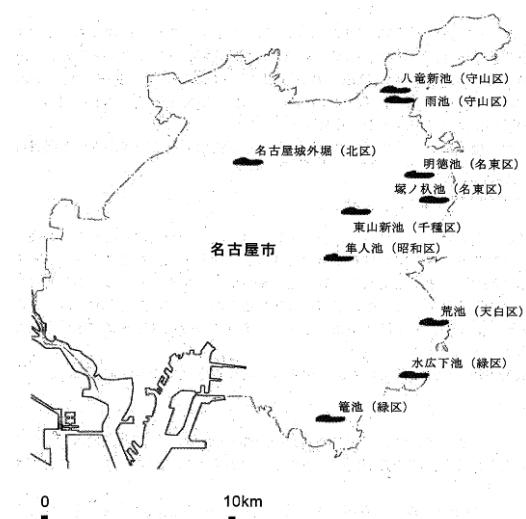
○地域住民の参画（地域づくり）

…池干しするため池は、市民団体（地域住民）が集まる会合において決定。

雨池では、池干しの当日には見学者を含め千名が参加。今後は、環境学習に利用するなど、池干しを通じて人と自然の関係を再構築する取組を一層推進。

○科学的知見に基づく取組み実施

…地域の研究者の協力を得ながら、池干しの際の生物調査や標本の作成など、順応的な取組を進めるためのデータ整備を実施。



生息生物調査を実施したため池位置図

（出典：名古屋市資料）

【名古屋市の位置】



隼人池の池干し
（出典：名古屋市 HP）



池干し中の雨池